



平成24年1月21日

積雪・凍結路面での転倒に注意！

～1・2月は特に滑りやすく3人に1人が入院～

東京消防庁管内において、平成18年から平成23年4月末までに、積雪や凍結した路面で転倒するなどして658人が医療機関に救急搬送されています。

これからの季節は、気温の低下や、降雪等により路面が凍結しやすい状況となります。積雪や凍結による転倒は、3人に1人が入院が必要とされる中等症以上となっていることから、東京消防庁では十分に注意するよう呼びかけています。

積雪・凍結路面に起因した事故の特徴

- 1 月別では、1月が最も多く329人、次いで2月が291人で両者を合わせると658人となり、救急搬送人員全体の約94%を占めている。
- 2 早朝から正午までの時間帯に多く発生している。
- 3 年齢層別では、50歳代から70歳代が多く、救急搬送人員全体の約64%を占めている。
- 4 積雪や凍結路面に起因した事故では、3人に1人が入院が必要とされる中等症以上と診断されている。
- 5 降雪時及びその後数日の間に、事故が集中している。

詳細は、添付資料をご覧ください。

問合せは、生活安全相談ダイヤルと生活相談メールでうけつけます。

「日常生活ではどんな事故が起きているの?」「事故の傾向を知れば・・・」
そんな日常生活の中での事故に関するお問合せやご相談は・・・

 **生活安全相談ダイヤル** 
0120-286-119

- ・平成24年3月30日(金)まで開設しています。
- ・利用時間 平日の8時30分から17時00分まで
- ・東京都内からおかけの場合に、ご利用いただけます。
- ・IP電話(050番号)などからは、ご利用いただけません。
- ・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。

「日常生活ではどんな事故が起きているの?」「事故の傾向を知れば・・・」
そんな日常生活の中での事故に関するお問合せやご相談は・・・

 **生活安全相談メール** 
seikatsuanzen@tfd.metro.tokyo.jp

- ・平成24年3月30日(金)まで開設しています。
- ・24時間受付していますが、回答は平日8時30分から17時00分までとなります。
- ・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。

東京消防庁では、積雪・凍結路面に係る救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民生活の安全確保に努めてまいります。

問合せ先

東京消防庁(代) 電話 3212-2111
防災安全課防災安全係 内線 4207
広報課報道係 内線 2345～2349

積雪や凍結路面に係る救急事故に注意！

平成18年から平成23年¹⁾の5年間の1月から4月と12月に、東京消防庁管内²⁾では、積雪や凍結路面に係る救急事故で658人が救急搬送されています。

事故防止のポイント

- (1) 靴は滑りにくいものを選び、足元には十分に気を配り、ゆっくりと歩く。
- (2) 早朝から正午にかけて、事故が多く発生していることから残雪や凍結路面を避けるなどの注意を払い、特に通勤通学等の時間帯は急いでいる場合が多いので、通常よりも少し早目に自宅を出るなど余裕を持って行動するよう心がける。
- (3) 降雪日や、その後数日の間は、路面等が凍結している場合が多いことから、特に注意を払う。また、自転車等の利用は控えるようにする。
- (4) 高所や傾斜地で滑った場合は、入院が必要とされる中等症以上となる割合が特に高いことから、階段に手すりがある場合には必ず利用し、屋根などの高所での作業は控えるようにする。

1 月別の発生状況(平成18年から平成23年までの1月から4月と12月)

月別では、月の平均気温が最も低くなる1月と2月に多く発生(620人、94.2%)しています(図1)。



図1：月別発生状況

2 時間帯別の発生状況

1) 平成23年は1月から4月までに発生したもの(速報値)

2) 東京都のうち東久留米市、稲城市、島しょ地区を除く地域(東久留米市は平成22年4月1日より東京消防庁管内となった。)

早朝から正午までの時間帯にかけて多く発生（361人、54.8%）しています（図2）。

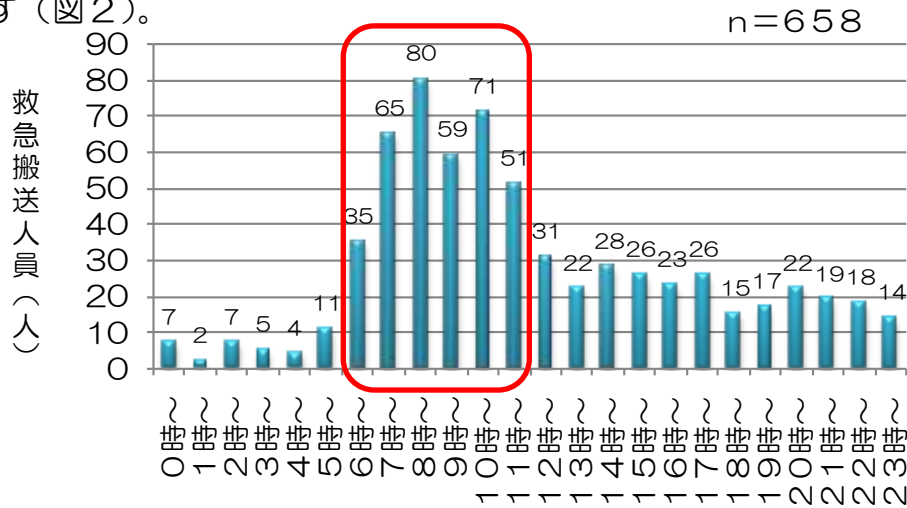


図2：時間帯別発生状況

3 年齢層別の発生状況

年齢層別に見ると、50歳代から70歳代にかけて多く発生（419人、63.6%）しています。また、10歳代と80歳代では、約4割が中等症以上となっています（図3）。

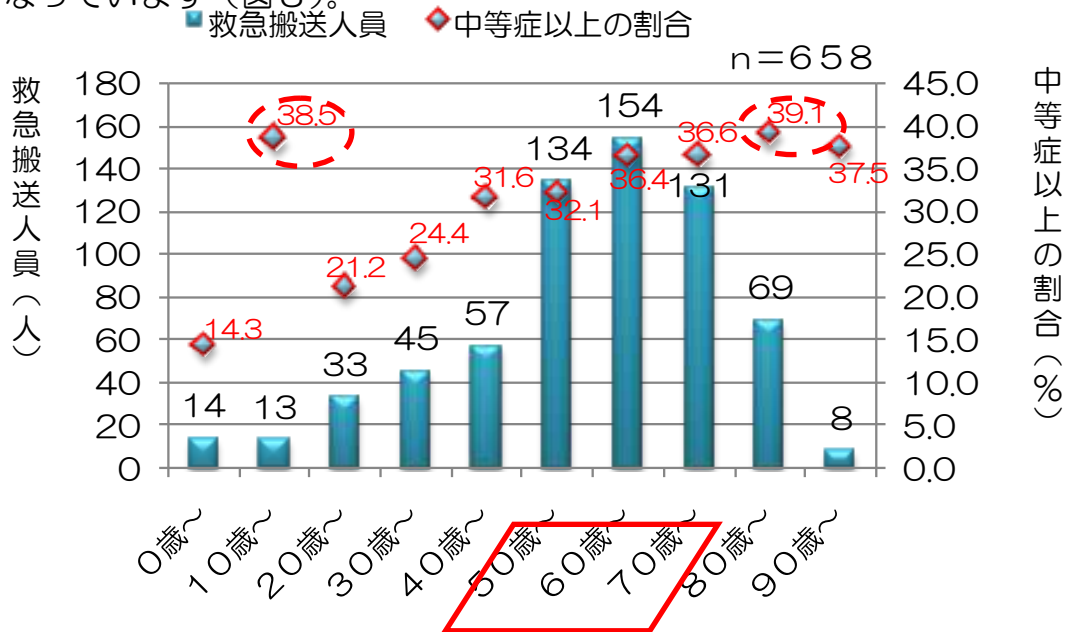


図3：年齢層別発生状況

4 受傷形態別の割合

積雪や凍結路面に起因する事故では、路上において滑って転倒し610人が救急搬送されており全体の約9割を占めています。

また階段や高所からの転落による救急搬送人員は38人と全体の約6%と少ないですが、初診時程度別にみると、階段での転落では40%、高所からの転落では75%が中等症以上と診断されているため、特に注意が必要といえます（図4・5）。

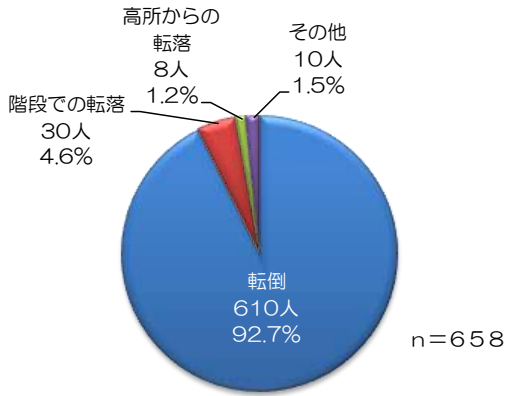


図4：受傷形態別割合

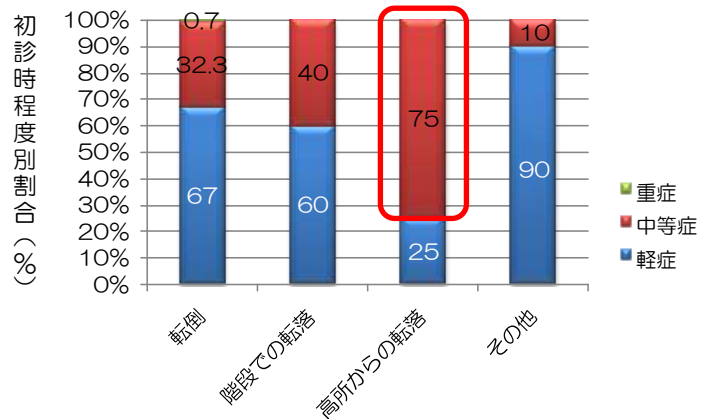


図5：受傷形態別初診時程度別割合

5 場所別初診時程度別の発生状況

場所別に見ると、路上が最も多く521人が救急搬送されており、次に階段が30人となっています。

また、場所が、スロープ、屋根・屋上、山林・山道、ベランダなどの高所や傾斜地の場合は、中等症以上となる割合が高くなっています（図6）。

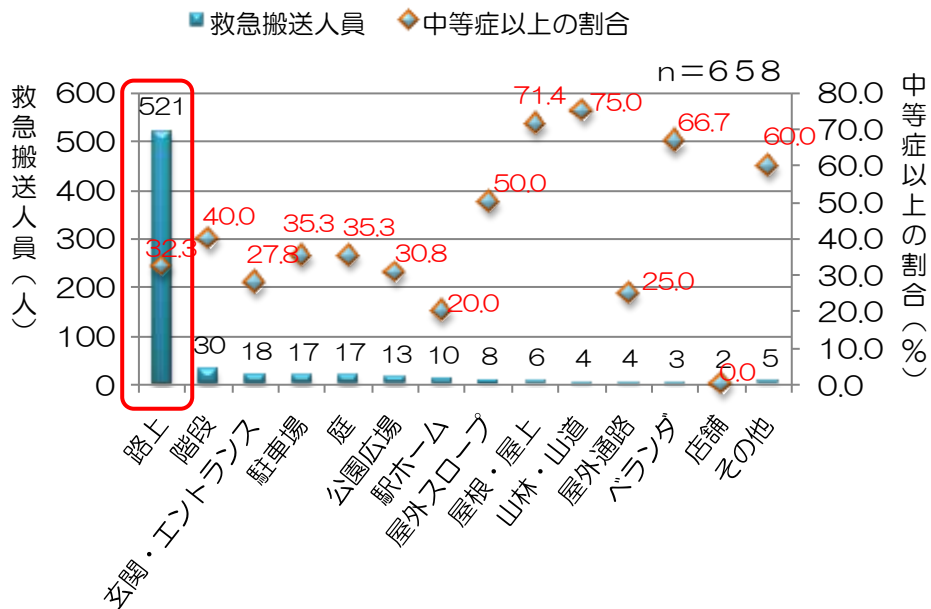


図6：場所別発生状況

6 事故発生時の行動等

事故発生時の行動をみると、歩行中に最も多く発生しており、次に雪かきなどの除雪作業中、自転車走行中と続いています。

積雪や凍結路面に起因した事故では、ほとんどの行動の約3割から5割が中等症以上となっています（図7）。

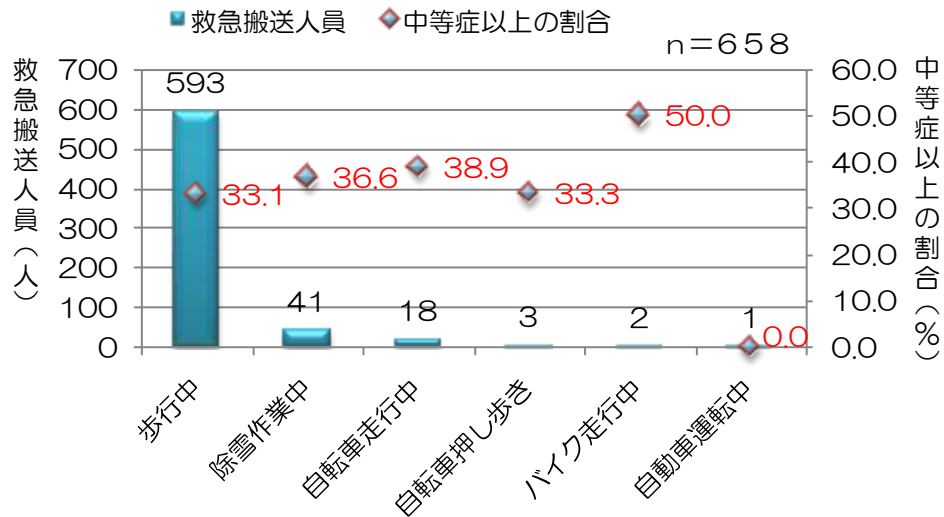


図7：行動別発生状況

7 初診時程度別割合

積雪や凍結路面に起因した事故では、約7割が軽症となっていますが、約3人にひとりの割合で中等症以上の診断を受けています（図8）。

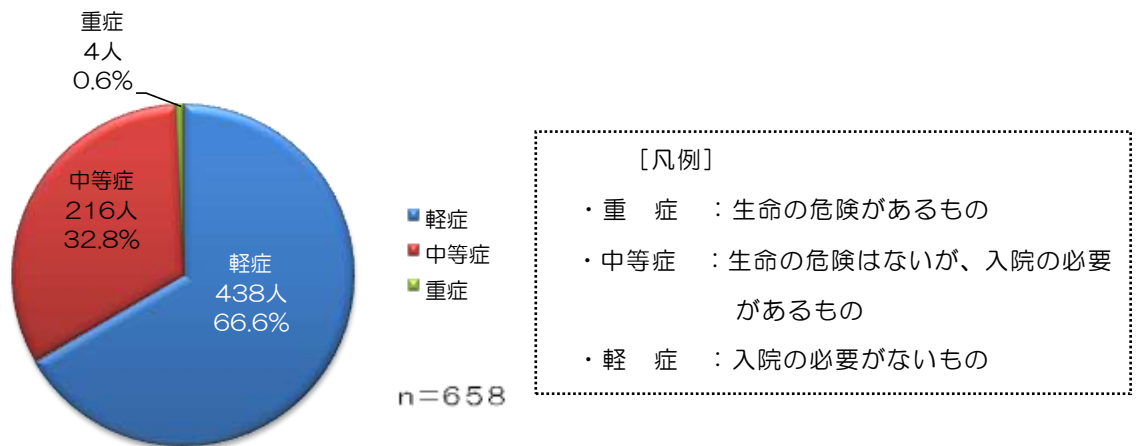


図8：初診時程度別割合

8 気象状況との関係

過去5年間で月平均気温の最も低い平成18年の1月について、日ごとの最低気温・降雪と救急搬送人員との関係を分析してみました。

平成18年1月は、21日に降雪があり、その雪が21日から24日にかけて残りました。21日の最低気温0度、22日の最低気温1.5度でしたが、残雪が6cm、23日は最低気温マイナス1.1度、24日は最低気温マイナス0.7度と冷え込んだため路面等が凍結して救急搬送人員が増加したと推測されます（図9）。

※過去5年間の月平均気温及び日ごとの最低気温については、気象庁の観測データを参照した。（観測地点：東京）

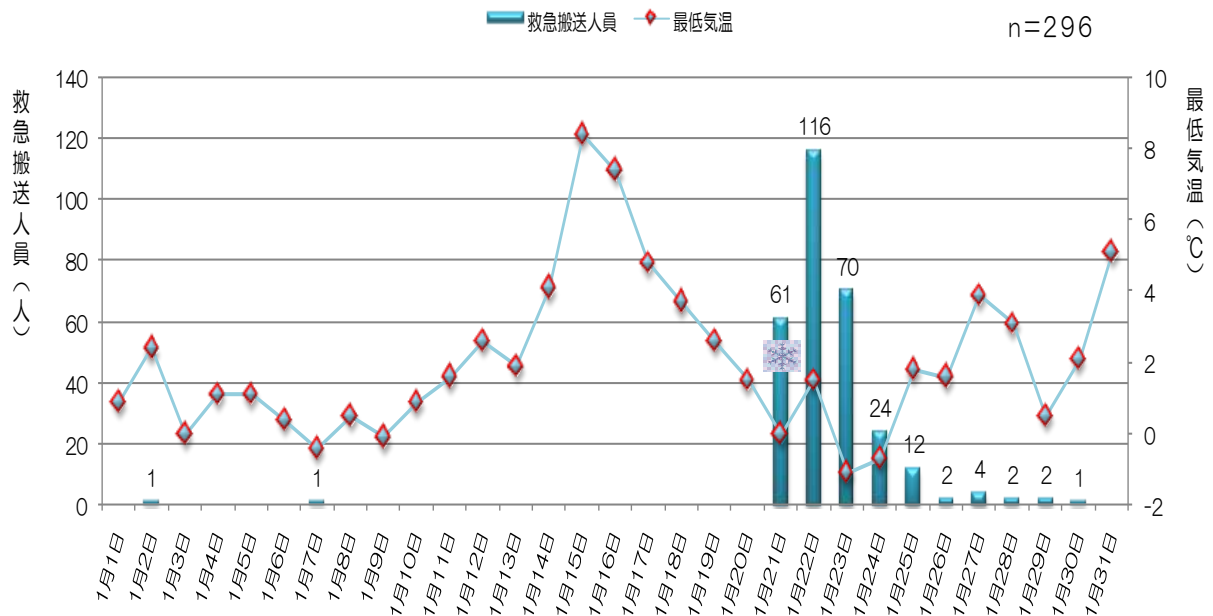


図9：気象状況と救急搬送人員の関係（平成18年1月）

9 事故事例

事例1

平成18年1月、44歳女性が自転車で走行していたところ、雪で滑り転倒し頭部を受傷したもの。（重症）世田谷区

事例2

平成18年1月、19歳女性が屋外階段を使用し大型スピーカーを運んでいたところ、階段に凍結した箇所があったため足を滑らせ転倒し、左肩を脱臼したもの。（中等症）八王子市

事例3

平成20年2月、34歳男性が脚立に乗り店舗のひさしに積もった雪を降ろそうとしたところ、雪で脚立が滑ったためにバランスを崩し、約1.5mの高さから転落し受傷したもの。（中等症）

事例4

平成20年2月、63歳男性が凍結した歩道で足を滑らせ、後方に倒れた際、後頭部を打撲し意識を消失したもの。（中等症）墨

事例5

平成21年2月、55歳女性が自宅2階のバルコニーへ出た際、バルコニーに張っていた氷により滑って転倒し、左股関節を受傷したもの。

事例6

平成23年2月、母親が運転する自転車が路上に残っていた雪でタイヤが滑り転倒した際、幼児用座席に座っていた5歳の女児が路上に投げ出され走行中の乗用車に接触したもの。（重症）渋谷

「日常生活ではどんな事故が起きているの?」「事故の傾向を知っていれば・・・」
そんな日常生活の中での事故に関するお問合せやご相談は・・・



生活安全相談ダイヤル



0120-286-119

- ・平成24年3月30日（金）まで開設しています。
- ・利用時間 平日*の8時30分から17時00分まで
- ・東京都内からおかけの場合に、ご利用いただけます。
- ・IP電話（050番号）などからは、ご利用いただけません。
- ・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。

「日常生活ではどんな事故が起きているの?」「事故の傾向を知っていれば・・・」
そんな日常生活の中での事故に関するお問合せやご相談は・・・



生活安全相談メール



seikatsuanzen@tfd.metro.tokyo.jp

- ・平成24年3月30日（金）まで開設しています。
- ・24時間受付していますが、回答は平日8時30分から17時00分までとなります。
- ・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。